

■生理検査科

○平成17年度目標

1. 医療事故の防止

- ・患者さまの取り違えの防止
- ・怪我の防止
- ・事務的ミスの防止

〈評 価〉

今年度のインシデント報告は計4件（レベル1のみ）。今年度も検査時の患者さまの取り違え、および結果報告時の名前間違いもありませんでした。また、移動時の転倒・転落事故もありませんでした。毎月の安全管理自己チェック表に「移動時の注意事項項目」が含まれており、それによる意識付けの効果が現れているものと思われれます。

ただし、確認不足・思い込みによる事務的ミスはまだ認められます。件数の増加、検査や患者さまへの直接の影響はありませんでしたが、前期には短期間に同じ者からの報告が続いたこともあり、知識的な面は直接指導をし、他のスタッフにも確認の徹底を促しました。

2. 検査の「質」の向上

- ・患者さまへの気配り
- ・正しい言葉遣い、清潔な身だしなみ
- ・感染の防止
- ・検査技術・知識の向上

〈評 価〉

検査中の室温管理や患者さまの様子に気を配ることが各スタッフに浸透したと思われ、このことに関するクレームはありませんでした。ほか、言葉遣いなどの接遇面でも特に問題は起きていません。

感染防止に関しては、手洗いの励行、検査機器の清掃、消毒など、昨年度同様自己チェック表による意識付けを行っています。それでも改善が認められない項目に関しては、互いに注意しあったり、チェック表の項目を改訂することで各人の意識の改善を試みています。

検査技術・知識の向上については、研修会・講習会へはこれまで通り参加していますが、開催日とPSG検査のための残業とが重なることもあり、思ったように参加出来ない者もおりました。

昨年から実施していた南三条との合同エコー検査研修は、残念ながら今年度に入ってからでは行えませんでした。また、院内での研修も、心カテ業務の増加など、他業務の増加に伴い検査の見学すらままならない状況が多かったため、あまり進められてはいません。エコーは腹部のみならず多部位の検査技術修得が要求されるため数年かけて行うつもりではありましたが、かなり遅延ぎみとなっていますので、来年度中に腹部だけでも研修を終了させるべく計画を立て直す予定です。

PSG検査については当初解析方法の習得を考えていましたが、検査数の動向および当科の現状を踏まえて担当医師と話し合った結果、当面は装着業務のみで進めていくこととなっております。

3. 他部署との情報交換

- ・各委員会での情報交換
- ・日常での連絡のやり取り

〈評 価〉

現在定期的なミーティング時間は設けていませんが、必要に応じて話し合いや報告会を開き、委員会で話し合った事例や情報を委員が他のスタッフに伝える体制は整っています。

業務上の問題点や疑問点はすぐ各部署と話し合い、解決するよう心掛けています。

4. 勤務体制の見直し

〈評 価〉

PSG検査の増加に伴い、日勤をしつつ21時過ぎまでの残業をする機会が増え、通常業務への影響が懸念されましたが、今年度導入されたQC活動において有給休暇取得（取得率が最低だった）について検討した結果、取

得率を僅かですが増加させることが出来ました。残業翌日に休暇を取ることはなかなか出来ませんが、可能な範囲で業務の調整を行い休養のとれる体制を整えていけたらと思っています。

○参加した講習会・研修会

17年 4月	日本消化器集団検診学会北海道支部 第3回超音波部会	「見逃すな、この所見！」～経過観察のポイント～
7月	消化管エコー研究会	「消化管ライブセミナー」
	日本超音波学会第3回地方会	僧房弁逆流～外科治療と超音波検査の役割～
8月	第100回札幌臨床生理談話会	「心エコー 陳旧性心筋梗塞の見方」
10月	第69回北海道超音波検査研究会講習会	「腹部・循環器臨床講義講習会」(2日間)
	血管・乳腺超音波セミナー	「血管エコー検査法～手技と計測の実際～」
		「乳腺超音波法～基本走査と応用走査および所見の捉え方」
11月	第128回北臨技講習会	「そこが知りたかった！ホルター心電図」
		～ホルターの最新情報とノウハウ～
	第3回北海道感染症対策セミナー	「進化する感染対策とその根拠」他
18年 2月	第102回札幌臨床生理談話会	「深部静脈血栓症の診療における下肢静脈エコー検査の役割」
	第10回札幌臨床検査生理談話会・札幌心電図懇話会合同講演会	「心臓核医学検査を用いた虚血性心疾患の診断」他

○検査実施件数（別表を参照下さい。）

昨年度と比較したところ、ほぼ同等か増加しており大幅に減少したものは認められません。

今年度の傾向としては、昨年度より開始した血管エコー検査の件数が順調に増えており、特にシャント評価の要請が多くなりました。また、頸動脈動脈評価も増えつつあります。来年度からは「血管ドック（さらさら健診）」がスタートするというので、生活習慣病と関連のある頸動脈評価は更に増えると思われます。また、「血管ドック」開始にあわせて3月に導入された血圧脈波検査も動脈硬化と足の血管の詰まりを評価するものですので、これに関連する下肢血管の評価も増える可能性が考えられます。

○これからの展望

一番の課題である腹部エコー検査の技術習得を確実に進めていきたいと思っています。また昨年同様、地元での研修会だけでなく、地方での研修会・学会への参加も検討していけたらと思っています。

このほか、各検査の概要についての説明用紙の作成など、患者サービスに関わることについても検討していきたいと考えています。

	17年4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		18年1月		2月		3月		17年度総計	
	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入	外	入
心電図	237	83	132	79	136	81	237	76	175	87	128	86	278	113	124	108	130	75	253	91	173	86	209	116	2212	1081
負荷心電図マスター	3	4	3	5	4	2	3	2	2	0	5	3	6	2	3	4	10	10	10	3	4	1	2	2	55	38
トレッドミル	5	5	2	1	5	0	1	1	3	1	2	1	6	2	4	2	3	4	1	5	3	8	3	2	38	32
ホルター心電図	6	4	9	8	14	7	11	5	19	9	16	7	14	9	17	13	14	12	18	17	15	17	18	11	171	119
心エコー	35	47	24	40	33	42	31	34	38	37	34	36	41	49	32	50	22	42	38	57	32	47	43	61	403	542
腹部その他のエコー	28	30	48	36	100	40	39	25	21	31	22	22	24	40	26	34	25	26	17	27	28	32	27	38	405	381
眼底カメラ	7	5	8	2	3	2	5	3	28	2	21	2	18	3	8	1	11	1	2	1	6	1	19	2	136	25
肺機能 ルーチン	28	5	29	9	24	17	30	11	26	7	18	11	25	14	27	8	22	8	23	14	20	15	19	14	291	133
残気量	17	5	22	8	20	13	23	10	19	5	16	11	23	13	26	8	17	8	17	12	18	14	18	14	236	121
拡散能	16	5	21	8	20	13	21	10	19	6	16	11	23	12	26	8	16	8	16	12	18	14	18	14	230	121
改善率	7	0	2	0	3	1	3	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	5	0	5	0	1	0	30	3
肺機能 TOTAL	28	5	29	9	24	17	30	11	26	7	18	12	25	14	27	8	22	8	23	14	21	15	19	14	292	119
穿刺		0		3		2		1		1		1		2		0		0		1		2		0		13
心臓カテーテル		6		6		11		4		4		6		6		13		8		14		5		5		88
骨密度測定	0	1	0	0	4	0	7	3	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	7	0	20	8
血圧脈波検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	8	1
合計	389	200	300	205	366	231	411	186	351	190	278	197	461	266	293	250	271	203	400	255	323	243	392	280	4235	2706
院外ホルター解析	30		15		15		22		15		21		23		15		19		21		24		19		239	
PSG検査	11		14		14		12(15)		7(8)		6(7)		7		7		10		7(8)		6(7)		9		110(117)	

*PSG検査の () は業者担当分を含む数